

〈 中間報告〉

南西諸島近代教育史研究・進行状況概要

虎 頭 民 雄
海老原 遙

本研究も三年目から四年目にかかろうとしている。当面の調査活動の基本は、直接現地に出向いて文献資料を蒐集しそれら进行分析・整理することにあるが、第一年目の奄美本島と沖縄本島、そして第二年目の沖永良部島と与論島につづいて、第三年目の昭和50年度は喜界島と徳之島とをその対象とした次第である。喜界島へは昭和50年の7月～8月にすでに調査に赴いたものの、徳之島へは年が明けた昭和51年2月に出かけることを予定しており、したがって現在の時点では本年度の研究事業は未完であり、ここでは喜界島における調査活動の概要のみを述べるにとどめ、その内容の幾分の委細にかんしては、徳之島にかんする分をもあわせて、次号における中間報告に期したいと考える。

喜界島では折しも7月31日が湾小学校における創立百年祭記念式典挙行の日にあたったので、われわれはこの日はさみ7月29日から8月3日まで同島に滞在したが、この間の活動を日録的に示すと次の通りである。

7月29日——早朝、湾港に到着。教育庁の大島教育事務局喜界駐在の永田典男主事にお会いして打ち合わせ、同氏の御案内で喜界町役場を訪問し、繁多町長、巖総務課長、栄教育長の方がたとお会いして懇談。さらに中央公民館を訪問し安村館長と、また湾小学校を訪問して作井校長とお会した。午後は中央公民館主催の文化講演会にのぞみ、虎頭は『近世における薩摩と奄美』、海老原は『教育における言語の問題』のテーマで講演した。来聴者は多数にのぼった。

7月30日——午前中永田主事の御案内で、小野津・志戸桶・早町の各小学校を訪問し、各学校でその沿革にかんする資料を見せていただきながら懇談。とくに小野津では中督塾の跡をたずね、また岡翁（91才）にお会いして話を伺うことができた。午後は、公民館および教育委員会で資料を見せていただいて検討。

7月31日——午前中、湾小学校百年祭記念式典に参列。盛会であった。午後、同記念祭にちなんでの同校における展示会を参観。展示会場で赤連出身の美代翁（91才）にお会いして話を伺うことができた。なお太利家より所蔵の文書をお借りして関係箇所をコピーした。

8月1日——午前中、早町中の新田教諭のお世話により自動車で島内の各地を歴訪して話を伺う。午後、手久津久の森元家を訪問して懇談。

8月2日——午前中、町役場・湾小学校・太利家を訪問。湾小学校で校史の関係部分を筆写する。午後から天候が悪化、鹿児島へ向けての出発は翌3日夕方となる。

得られた資料やそれにもとづく教育史的事実の概要は次号において中間報告することにするが、今回われわれに多大な援助を与えて下さった上記の諸氏にとりあえずこの場をかりて深く感謝いたしたい。

なお今後のことにかんして言えば、昭和51年2月予定の徳之島での調査研究につづき、昭和51年度には以前から延びのびとなっている案件の先島諸島（宮古島、八重山島、石垣島等）における調査研究に従事する予定である。

また海老原が滞英中に研究の一環としてスコットランドおよびウェールズの現地に赴いて得てきた bilingual education その他にかんする資料は、本テーマへの比較教育的アプローチの可能性をはらむものとして、今後その検討をも共同ですすめてゆきたいと考えている。